

## 2022年度 関西大学博物館実習

2022年度の関西大学博物館実習は、受講者44名で、内訳は表の通りである。関西大学では博物館実習を通年授業として設けており、金曜日の4時限～5時限のクラスと、土曜の4時限～5時限のクラスがある。それぞれのクラスでは学内での博物館実習と実習展の開催、学外見学実習を行っている。カリキュラムは、後掲の「2022年度関西大学博物館実習日程」の通り実施した。

春学期には、「資料の基礎的な取り扱い」から「資料の梱包」、「資料の調書の取り方」へと段階的に実習した。あわせて月に1度程度日曜日を利用した近畿圏の博物館・美術館施設の見学実習を実施することで、博物館における学芸業務全般についての基礎的な知識の習得を目指した。

秋学期には、実習生による「関西大学博物館実習展」の開催に向けて具体的な作業を行う。この「関西大学博物館実習展」は、習得した学芸業務についての知識と経験、受講生の専門分野や興味を基に、グループを結成して準備、実施する展示会で、博物館実習の集大成としての行事である。今年度は、学生グループが自主的に5つのテーマを設定し、展示資料の借用交渉と展示方法などの折衝を続け、充実した内容での展示会を実施することができた。内容と来館者アンケートの結果を実習展の報告として収録した。

実習展終了後には実習展の振り返りや拓本実習、ユニバーサルデザインについての講義、講義最終日は実習の反省会を開催して、2022年度の博物館実習のカリキュラムを終了した。

2022年度は様々な感染症対策を講ずることにより、すべての授業を対面にて行い、学外見学実習も計画通り実施した。「関西大学博物館実習展」は3年ぶりの通常開催となった。

今年度の博物館実習担当教員は、本学教員とともに博物館・美術館や研究機関、行政機関に所属される学芸員、専門担当者を委嘱してあつた。

### 2022年度 担当教員

米田 文孝	文学部特別契約教授		
井上 主税	文学部教授	黒田 一充	文学部教授
高久 智広	文学部教授	原田 正俊	文学部教授
西本 昌弘	文学部特別契約教授	橋寺 知子	環境都市工学部准教授
明尾 圭造	大阪商業大学教授	一瀬 和夫	京都橘大学名誉教授
伊藤 健司	関西大学文学部非常勤講師	河内 晋平	株式会社studio 仕組代表取締役
北川 博子	関西大学文学部非常勤講師	高田みちよ	高槻市立自然博物館主任学芸員
高見 國一	刀匠	佃 梓央	一茶庵宗家
寺西 貞弘	関西大学文学部非常勤講師	西川 卓志	関西大学文学部非常勤講師
藤枝 宏治	株式会社藤枝春月代表	文珠 省三	関西大学文学部非常勤講師
山口 卓也	関西大学文学部非常勤講師		
山下 大輔	関西大学博物館	合田 茂伸	関西大学博物館
伊藤 信明	関西大学年史編纂室	佐藤健太郎	関西大学年史編纂室

## 2022年度博物館実習受講生数

### 全体

		3 年次	4 年次	合計
学 部	法 学 部	1	1	2
	文 学 部	29	5	34
	経 済 学 部			
	商 学 部			
	社 会 学 部			
	政策創造学部		1	1
	外国語学部			
	総合情報学部			
	社会安全学部			
	理工系学部			
	小 計	30	7	37
大 学 院				6
科 目 等 履 修 生				1
総 合 計				44

院・学部・年次別	3 年次	4 年次	大学院	科目等	合計
1 組（金曜日）	26				26
2 組（土曜日）	4	7	6	1	18
合 計	30	7	6	1	44



博物館実習展作業風景

# 2022年度 関西大学「博物館実習」日程

授業時間 1組：金曜日 4・5時限 (14:40～17:50)  
2組：土曜日 4・5時限 (14:40～17:50)  
2022.4.1

月	1組 (金曜)		2組 (土曜)	
	A班	B班	A班	
8/金	担当者全員 第1学舎4号館D304	クラス編成、実習簿・日程表配布 等	9/土	担当者全員 第1学舎4号館D304 クラス編成、実習簿・日程表配布 等
15/金	寺西 博物館実習室	文化財保護法の解説	16/土	寺西 博物館実習室 文化財保護法の解説
22/金	山口 博物館展示室	考古資料の取り扱い	23/土	佐藤 古文書実習室 (D棟) 歴史資料の取り扱い
24/日	高久・山下・今井 大阪歴史博物館・大阪市立美術館	博物館等施設見学 (大阪府下博物館園)		
29/金	みどりの日 (祝日)			
30/土	山下・佐藤 博物館実習室	博物館における資料研究 (公開講演会)		
6/金	伊藤 (信) 古文書実習室 (D棟)	歴史資料の取り扱い	7/土	文殊 博物館展示室 考古資料の取り扱い
13/金	明尾 博物館実習室	美術資料の取り扱い	14/土	北川 博物館実習室 美術資料の取り扱い
20/金	西川 博物館展示室	歴史・考古資料の調査 の取り方と梱包の仕方	21/土	合田 博物館展示室 歴史・考古資料の調査 の取り方と梱包の仕方
27/金	佃 博物館実習室	お茶と文化	28/土	佃 博物館実習室 お茶と文化
29/日	佃・西田 一茶庵 (13:30～)	資料取り扱い・鑑賞 (茶室)		
3/金	明尾 博物館実習室	美術・工芸資料の調査の 取り方と梱包の仕方	4/土	北川 博物館実習室 美術・工芸資料の調査の 取り方と梱包の仕方
10/金	黒田 博物館実習室	民俗資料の取り扱い・民具調査と採集方法	4限	黒田 博物館実習室 民俗資料の取り扱い・民具調査と採集方法
	西本 古文書実習室 (D棟)	文書資料の取り扱い	5限	原田 古文書実習室 (D棟) 文書資料の取り扱い
12/日	米田・合田 滋賀県立琵琶湖博物館	博物館等施設見学 (近郊)		
17/金	西川 博物館実習室	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版 (博物館連絡) 印刷データの提出方法について	18/土	合田 博物館実習室 展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版 (博物館連絡) 印刷データの提出方法について
24/金	河内・高見 増築棟セミナー室	刀剣の取り扱いの基礎と方法	25/土	河内・高見 増築棟セミナー室 刀剣の取り扱いの基礎と方法
26/日	高久・石立 京都国立博物館・細見美術館・並河靖之七宝記念館	博物館等施設見学 (京都方面美術館)		

1 組 (金 曜)		2 組 (土 曜)	
月	日	A 班	B 班
7	1/金	一瀬 博物館実習室	一瀬 A 班 展示開発ワークショップ
	3/日	一瀬・西田 大坂府立弥生文化博物館・和泉市体験学習館	展示開発ワークショップ 博物館実習室
	8/金	藤枝 増築棟セミナー室	増築 増築棟セミナー室
	15/金	米田・高久 博物館実習室	表具の取り扱いと保存技術 米田・井上 博物館実習室
	22/金	予備日	博物館実習室
8	31/日	寺西・伊藤 (信) 近畿園博博物館見学 (和歌山方面)	博物館等施設見学 (選択制①)
	3/水 ～5/金	黒田・佐藤・今井 東京国立博物館・国立西洋美術館・国立科学博物館他	博物館等施設見学 (東京都下宿泊研修2泊3日)
	3/水・4/木	夏休業者中 館長・井上 博物館実習室他	キッズミュージアム 博物館実習室他
	20/火	西本・佐藤 元興寺文化財研究所・奈良国立博物館他	博物館等施設見学 (選択制②)
	23/金	西川 増築棟セミナー室	資料写真撮影の目的と方法 今田 増築棟セミナー室
9	30/金	橋寺 博物館実習室	文化遺産としての建造物 橋寺 博物館実習室
	2/日	橋寺・山下 竹中道見館・神戸居留地周辺景観観察	博物館等施設見学 (神戸市 建造物・景観見学)
	4/限	米田・高久 博物館実習室	展示計画プレゼンテーション 米田・高久 博物館実習室
	5/限	文珠 博物館実習室	展示における照明と生物被害 文珠 博物館実習室
	7/金	伊藤 (健) 博物館実習室	資料の借用と運送の現状 伊藤 (健) 博物館実習室
10	14/金	山下 博物館実習室	展示の技術 (展示ケースの開閉、展示台の使い方など) / 実習展での資料借用と梱包 / 印刷物等の提出方法について 山下 博物館実習室
	21/金	黒田・山下 博物館展示室	博物館の普及広報と情報化、インターネットプレゼンテーション 黒田・山口 博物館展示室
	28/金	高久・文珠 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業) 伊藤 (健)・北川 博物館展示室
	4/金	創立記念日 (休日) 米田・明尾 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業) 予備日 井上・山口 博物館展示室
	11/金	担当者全員 (講評) 博物館展示室	実習展 10:00～16:00 展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業) 博物館展示室
11	13/日 ～18/金	高田 博物館展示室	講評 (11/18 16:20～17:50)・撤去 (11/18-11/19) 高田 博物館実習室
	25/金	博物館実習室	自然史資料の保存と整理 自然史資料の保存と整理
	27/日	高田・石立 自然観察・自然系博物館	博物館等施設見学 (自然観察)

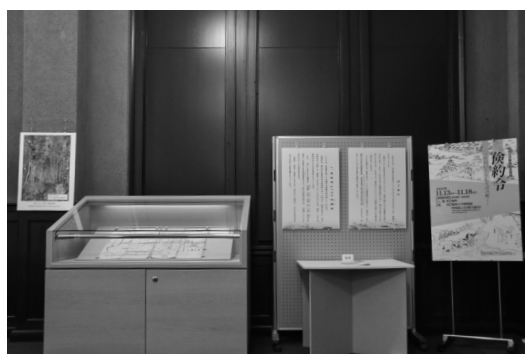
月	1 組 ( 金 曜 )			2 組 ( 土 曜 )		
	日	A 班	B 班	日	A 班	
12	2/金	合田 博物館実習室	拓本の取り方	3/土	合田 博物館実習室	拓本の取り方
	9/金	一瀬 博物館実習室	展示評価 (実習展の振り返り)	10/土	一瀬 博物館実習室	展示評価 (実習展の振り返り)
	16/金	西川 博物館実習室	ユニバーサルデザインと博物館	17/土	合田 博物館実習室	ユニバーサルデザインと博物館
	23/金	担当者全員 第1学舎4号館D304	1年間の反省・学芸員の課題	24/土	担当者全員 第1学舎4号館D304	1年間の反省・学芸員の課題
	13/金	(予備日)				
1	14/土 締切	1組・2組全員 (提出場所) 博物館事務室	博物館実習簿及びレポートの提出 (レポート課題) 「自由題」 A4判 横書き 4000字 (原稿用紙・ワープロ作成いずれも可)	提出期間 1/10～1/14 提出時間 10:00～16:00 (12:30～13:30は除く)		
	20/金	(予備日)		21/土	(予備日)	
2	15/水～	1組・2組全員 (受取場所) 博物館事務室	博物館実習簿及びレポートの返却	受取時間 10:00～16:00 (12:30～13:30は除く)		

〔実習上の諸注意〕

- (1) 実習に関する全ての連絡は、関大LMSの「お知らせ」または「メッセージ」にて行うので、実習のある日の前日には、必ず関大LMSをチェックすること。  
また、休日に実施する実習・見学等の詳細については、その都度授業中に指示をすることもあるのでは注意すること。
- (2) 見学は時間的に制約される場合が多いので、時間厳守で集合のこと。
- (3) 館内においては、館則を守り、学生としての品位と自覚が必要。また、万年筆・ボールペン等は使用しないこと。鉛筆のみ可能。
- (4) 実習簿は所定の日には必ず提出すること。その際、配付した資料・見学実習等で集めた資料等も実習簿にファイルしておくこと。また、戻点後は各自へ返却するので必ず受取りに来ること。



博物館実習展会場



第1班



第2班



第3班



第4班



第5班





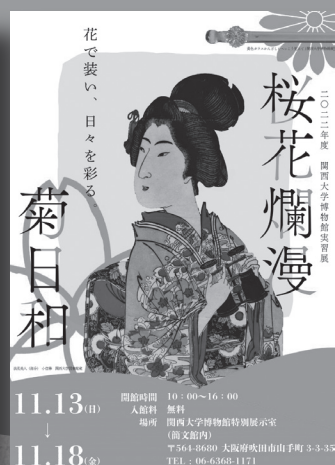
# 2022年度 関西大学 博物館実習展

11/13日  
11/18金

開館時間：10時～16時

入館料：無料

場 所：関西大学博物館  
特別展示室(簡文館内)





# 2022年度 関西大学博物館実習展

11月13日(日)～11月18日(金)

開館時間:10時～16時 / 入館料:無料  
関西大学博物館特別展示室(簡文館内)



## 儉約令 ～庶民のくらしを読み解く～

皆さんは江戸時代の庶民のくらしがどのようなものであったか想像できるでしょうか。当時のくらしを知る手がかりとして、各地に残された古文書があります。しかし、現代に伝わる江戸時代の文書の多くは、領地の統制のため領主や村役人たちが書いたものです。したがって、これらの文書の中で庶民のくらしについて詳しく触れたものは多くありません。そこで本展では、関西大学総合図書館の近世文書コレクションより、日常の質素儉約を奨励した「儉約令」など、庶民のくらしの一端を示す資料をご紹介します。およそ300年前の庶民のくらしを読み解いてみましょう。

## 大坂の両替商と大名 一預申銀子之事一

江戸時代には、金・銀・銭の3種類の貨幣が流通しており、その相場の変動や使用通貨の地域差のため、貨幣を両替する必要性がありました。そのため両替商という生業が確立し、発展していきました。一方で、彼らは両替だけでなく現在の銀行のような役割も担いました。中でも大坂には有力な両替商が集まり、彼らは商人でありながら幕府や大名を相手に取引を行っていたのです。

本展では両替商が使用した道具や大名との取引証文などを取り扱い、道具・文書の2つの視点から彼らの活躍の一部をご紹介します。



## お金のデザイン展

皆さんの財布にあるお金には何が描かれているか、今思い浮かべることはできますか？あるいは「キャッシュレスにしまったから、財布を持っていない！」という方もいらっしゃるかもしれません。貨幣、つまり紙幣や硬貨には「聖徳太子」のような誰もが知る偉人の肖像、日本を象徴する植物や動物も描かれ、これまでに多くのデザイナーが人々に親しまれてきました。

本展は、明治から令和に至る紙幣や硬貨を紹介しながら、偽造防止技術の発展に伴うデザインの変化をご覧ください。

となつきの貨幣とともに、世界に誇る手のひらサイズの精緻な技術をお楽しみください。

## 結びの文化展

皆さんは「結び」ということばを聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。

日本には「結び」に関する文化が多くあります。たとえば、慶事や弔辞に欠かせないのし袋の「水引」や、お正月の「しめ縄飾り」、飾り結び、着物の帯など、「結び」と聞いてイメージするものは、このようなものではありませんか。

私達が日頃、目にするものの中にも、さまざまな「結び」が存在しているのです。そしてこれらの「結び」は、現代のライフスタイルに合わせて、雑貨やアクセサリとしてアレンジされています。

本展では皆さんが日常で目にする「結び」に着目して、現代の日本において展開する「結び」の一端を感じていただきたいと思います。



## 桜花爛漫 菊日和

古来より、人々は多くの場面で花を愛でてきました。現代においても我々にとって花は身近な存在であり、和歌や文学作品、生活用品の中に歴史を通してその存在を感じることができます。時には人は花に癒され、季節や哀愁を感じ、いつかは散ってしまうであろうその姿に自らの人生をも重ねることがあります。

本展においては、日本の伝統的な装飾品に数多く用いられている桜と菊に焦点を当てています。その生態を始めとして、これらの花を感じる絵画、装飾品、化粧品などを展示しています。本展を通して、花に彩られた人々の生活を味わってください。

## 関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 簡文館内

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35  
<https://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>

TEL : 06-6368-1171  
E-mail : [hakubutsukan@ml.kandai.jp](mailto:hakubutsukan@ml.kandai.jp)



## 関西大学博物館実習展 アンケート

本日は関西大学博物館実習展にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今後の実習展の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いいたします。なお、頂いた回答はアンケート集計の目的以外には使用いたしませんので、率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

### 【お登録自身について】

性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性	<input type="checkbox"/> 回答しない
年齢	<input type="checkbox"/> 10代未満 <input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60歳以上		
住所	<input type="checkbox"/> 吹田市 <input type="checkbox"/> 大阪府 <input type="checkbox"/> 兵庫県 <input type="checkbox"/> 京都府 <input type="checkbox"/> 奈良県 <input type="checkbox"/> 和歌山県 <input type="checkbox"/> 滋賀県 <input type="checkbox"/> 三重県 <input type="checkbox"/> その他( <input type="text"/> 都 / 道 / 県 )		
所属	<関西大学> <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 高校生・中学生 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> 大学院生 <input type="checkbox"/> 校友 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 関係員 <関西大学以外> <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 小学生以下		

今回の実習展をなで知りましたか。

☐ 授業で ☐ ポスター・広告で ☐ 関西大学HPで ☐ SNS  
☐ 友人・知人から ☐ その他(  ) ※複数回答可

晋致博物館・美術館にはどのくらいの頻度で足を運びますか。

☐ 週に一回以上 ☐ 月に一回以上 ☐ 半年に一回以上 ☐ 年に一回以上 ☐ ほとんど行かない  
これまで関西大学博物館にお越しになったことがありますか。  
☐ 初めて ☐ 2~4回 ☐ 5回以上 ☐ 毎年

### 【各回の展示について】(裏面に続きます)

※5段階評価は、(5=たいへん良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=たいへん悪い)の項目のどれか一つを選び、該当する数字に丸をつけてください。

#### ・「條約令」もたらす庶民の暮らしの展示について

①展示内容について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
②展示の見やすさについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
③展示の解説・パネルについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
④「條約令」に対しての興味・関心について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
⑤展示品の中で最も印象に残った史料に関してや改善点などご自由にお書きください。

(裏面に続きます)

・「大坂の商賈問と大名~桐り申殿子之事~」の展示について  
①展示内容について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
②展示の見やすさについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
③展示の解説について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
④両首飾に興味を持ったか ( はい ・ いいえ )※はいの場合その展示品名( )  
⑤今回の展示についてのご意見、ご感想があれば、ご自由にお書きください。

#### ・「お金のデザイン展」の展示について

①展示内容について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
②展示の見やすさについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
③展示の解説について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
④展示全体の雰囲気について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
⑤今回の展示で印象に残った貨幣・紙幣、またはご意見、ご感想があれば、ご自由にお書きください。

#### ・「続ひの文化展」の展示について

①展示内容について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
②展示の見やすさについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
③展示の解説について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
④展示全体の雰囲気について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
⑤印象に残った展示品、または今回の展示についてご意見、ご感想があれば、ご自由にお書きください。

#### ・「桜花開運 菊日和」の展示について

①展示の見やすさについて ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
②展示の解説について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
③展示内の動画について ( 5 . 4 . 3 . 2 . 1 )  
④装いにおける菊と桜について興味を惹かれたか、 ( はい ・ いいえ )  
⑤特に印象に残った・興味をわかれた展示物や、展示の改善点がございましたらご自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。  
アンケート用紙は受付でスタッフにお渡しください。

# 2022（令和4）年度博物館実習展 アンケート分析結果に関する報告

## はじめに

今回、我々博物館実習生は、令和4年11月13日（日）～11月18日（金）の6日間に渡り博物館実習展を開催した。我々は、「儉約令～庶民のくらしを読み解く～」、「大坂の両替商と大名一預申銀子之事ー」、「お金のデザイン展」、「結びの文化展」、「桜花爛漫 菊日和」の5つのグループに分かれ、それぞれテーマを設定し展示を行った。同時に、来館者に対して今回の実習展に関するアンケートを配布し、回答してもらった。ここではこのアンケートの結果を集計し、それを基に分析を行った。

## 1. 調査概要

### （1）調査目的

調査目的は今回の博物館実習展に対する来館者の感想、評価等について調査し、良かった点と改善すべき点について把握することである。また、来年の実習展において、今回の結果と分析を活かすことである。

### （2）調査項目

共通質問として来館者自身について（性別、年齢、住所、所属、実習展をなにごで知ったか、普段の博物館・美術館を訪れる頻度、これまでに関西大学博物館に来たことがあるか）と、各グループの展示についての5項目である。

### （3）回収状況

計272名

## 3. 共通質問 来館者について

### （1）はじめに

今回の来館者の内、272名もの方にアンケー

トを回答していただいた。ここでは、来館者の傾向について、今後の博物館実習展において参考になるように、様々な点から分析していく。

### （2）質問内容と分析方法

来館者の傾向について調査するにあたり、「性別」、「年齢」、「住所」、「所属」、「実習展をなにごで知ったか」、「普段の博物館・美術館を訪れる頻度」、「関西大学博物館に来たことがあるか」の7項目を共通質問として設定し、その結果を統計分析ソフトで分析した。

## 2. 調査結果と分析

図1は、来館者の性別を示したものである。今回の実習展においては、女性が男性よりも多く女性：男性＝5：4という結果になった。

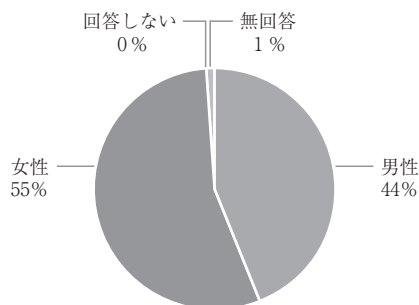


図1 来館者の性別

図2は、来館者の年齢層を示したものである。最も割合が高い年齢層は20代、次点で10代となっており、この2つで半数以上を占めている。また、60歳以上と50代も決して少ない割合となっている。これは博物館が大学構内に立地しているということが深く関係していると思われる。

反対に、10歳未満はほとんど来館しなかった。これは、来館していてもアンケートに興味を持たなかったか、書けないため親のみ書いているといったケースが多いからであると推測する。

図3は、来館者の住所を示したものである。大阪府が約4割、次点で吹田市が2.5割となっており、2つで半数以上を占めている。これは図2と同様に、本学が大阪府吹田市にあることが影響していると考えられる。この2つの次に割合が大きいのが兵庫県と京都府であることから、裏付けられる。

図4は、来館者の所属を示したものである。ここでも大学構内に立地する博物館であることが要因となっている。半数以上が本学学生

であり、次点では一般の方となっている。次の図5でまた一般の方も含めて来館したきっかけを分析するが、それ以外では日曜日に実用英語技能検定が行われていたことによって本学に来訪し、ついでに博物館にも立寄ったという方も一定数確認した。

図5は、来館者が実習展を知ったきっかけを示したものである。授業、友人、ポスターをきっかけに来館した人が多く、次点でHPとなっている。来館者の年齢層と所属から考えるに、学生が授業によって訪れることや、その授業で訪れた人や実習展関係者から誘われた友人が多いと推測できる。また、博物館前を始めとした各地や学芸員関係の授業、実習生の履修している授業等、多くの場所でポス

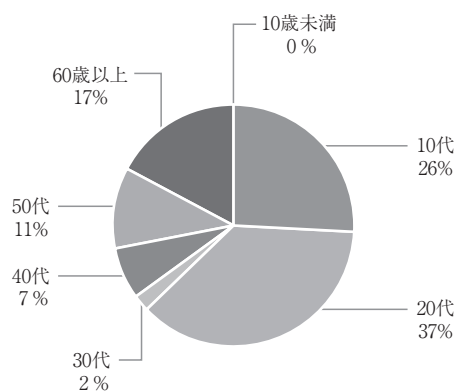


図2 来館者の年齢層

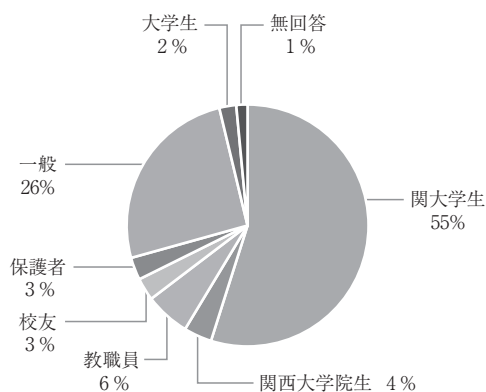


図4 来館者の所属

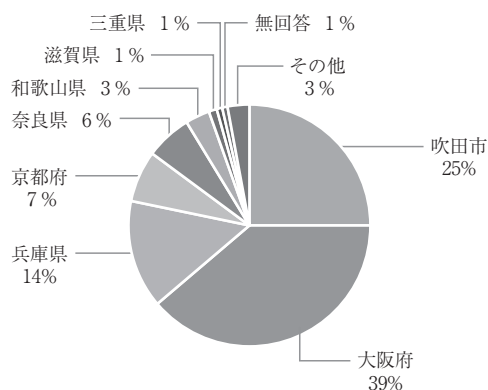


図3 来館者の住所

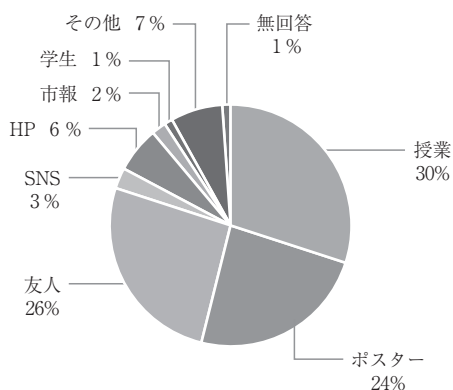


図5 来館者が実習展を知ったきっかけ

ターを掲示・配布していたため、それを見て来館した人も多いと考えられる。インターネットでも、HPやSNS等で発信していたため、我々の行動範囲外の人にも、実習展の存在を知らせることが出来たということが分かった。

図6は、来館者が普段の博物館・美術館を訪れる頻度を示したものである。調べた目的としては、博物館・美術館に対する興味の度合いがどの程度の層が今回の実習展を知って来館したのか、について知るためである。結果としては、半年に一回以上訪れる人が最も多く、次点でほとんど行かない人、その次に月に一回以上の人が入り、週に一回以上、年一回以上、無回答の順である。

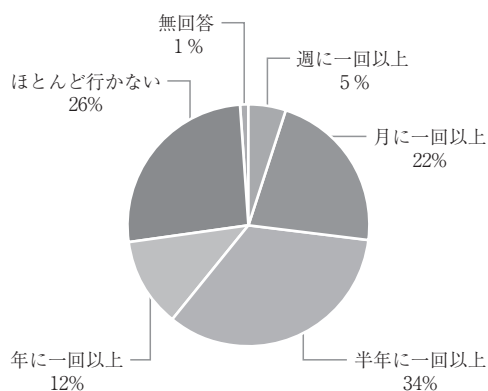


図6 普段の博物館・美術館を訪れる頻度

図7は、来館者が今まで関西大学博物館を訪れた回数を示したものである。初めて訪れた人と、2～4回訪れたことがある人が、全体のそれぞれ4割ずつを占めている。実習展以前では、関西大学博物館に訪れる機会が無かった人が多いことが分かる。

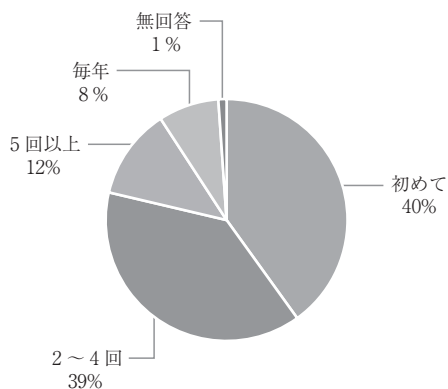


図7 来館者が関大博物館を訪れた回数

### 3. 来館者についての考察

ここまでの調査の結果と分析から、今回の実習展における来館者は、10代～20代の本学学生で、授業や友人を通じて実習展を知って来館した人が多いと考えられる。このことから、授業や友人といった自身に関係することや人からの広報には大きな効果があると言える。また、ポスターをきっかけに来館した人も多くいることから、ポスターの掲示や配布も同等に効果的であると言えるであろう。

また、一般の方も含め、全体的に博物館・美術館に積極的に高頻度で訪れる層ではないことに加え、関西大学博物館にも毎年何度も訪れるわけではない層が多く来訪している。このことから、実習展が行われたことをきっかけに来館したと推測できる。

ここでは示していないが、初日の日曜日は来館者が最も少なく、最終日の金曜日は最も来館者が多かった。これは、初日の天候が悪かったことに加え祝日であったこと、最終日に授業に関係して来館した人が多かったことが要因であると考えられる。しかし、日曜日には実用英語技能検定のついでに来館者もいたことから、我々の広報の範囲外の要因も来館者の数に大いに関係してくることが判明した。



今回は、各班の印象についての記述は設けたものの、実習展全体としての感想の記述欄を設けなかったことで、全体の評価が不明となってしまった。また、裏面にアンケートが続いていることをあまり強調出来なかったために、裏面に気づかない人が一定数いた。そのため、儉約令班の記述欄を全体の評価欄と勘違いしたり、来館者についての情報のみ書いたりした人も少なくなかった。この点に関しては、アンケート用紙の構成をもう少し分

かりやすく工夫すべきである。

### おわりに

今回の博物館実習展では、久しぶりの対面ということもあり、実際に展示を行ってみると、実習展以前では見えていなかった傾向が明らかとなった。こうしてアンケートの結果をまとめ分析することで判明した傾向を、次回の実習展に活かしていきたい。

(文学部 3 回生 神谷風奈)

## I. 儉約令～庶民のくらしを読み解く～

### 1. はじめに

私たちは、江戸時代に出された儉約令についての展示を行った。本展示では、内瀬村という村に焦点を当て、儉約令をもとにし、当時の庶民のくらしを読み解くことを目的としたものである。

ここでは、その展示に対する来館者の印象についての分析を行う。

### 2. 問いについて

まず、はじめに展示の内容、展示の見やすさ、展示の解説・パネル、「儉約令」に対する興味・関心についての4項目を選択式の五段階で評価してもらった。

また、自由記述として、展示品の中で最も印象に残った史料に関して、改善点等を記入する問いも設けた。

### 3. 分析結果

#### (1) 選択式の問いについて

上記では、五段階評価としているが、「たいへん悪い」という回答は、どの問いに関しても、1%に満たなかったため、以下のグラフでは、記載せず、四段階で作成している。

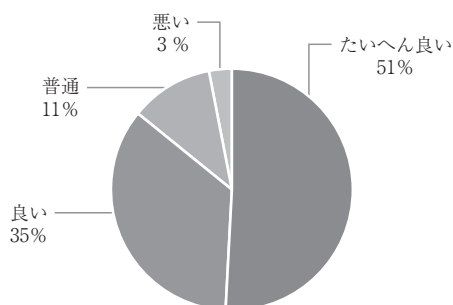


図1 展示の内容について

この図は、展示の内容についての評価を示したものである。図1の通り、約86%の方が、「たいへん良い」、「良い」と回答されており、おおむね良い結果であった。

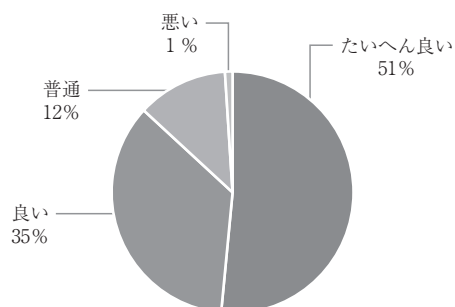


図2 展示の見やすさについて

この図は、展示の見やすさについての評価を示したものである。図2の通り、約86%の方が、「たいへん良い」、「良い」と回答されており、おおむね良い結果であった。

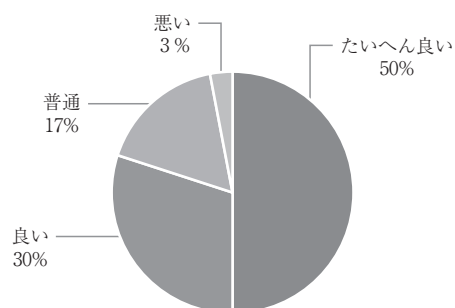


図3 展示の解説・パネルについて

この図は、展示の解説・パネルについての評価を示したものである。図3の通り、約80%の方が、「たいへん良い」、「良い」と回答されており、おおむね良い結果であった。

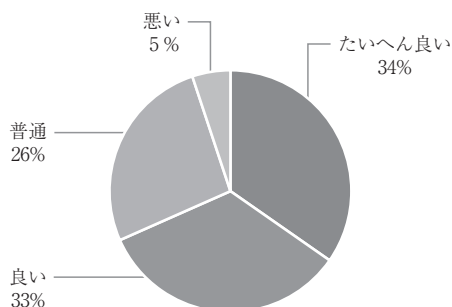


図4 「儉約令」に対する興味・関心について

この図は、「儉約令」に対する興味・関心についての評価を示したものである。図4の通り、約67%の方は、「たいへん良い」、「良い」と回答されているが、他の3項目とは違い、「普通」、「悪い」の部分の割合の高さが目立った。

## (2) 記述式の問いについて

記述式の問いに関しては、以下の通りである。膨大な量になるため、一部を抜粋した形で掲載する。

- ・最初と最後の地図が比べられるようにあったほうがわかりやすいのではないか
- ・歴史が苦手な私でも興味深く楽しむことができました
- ・1の解説パネルはもう少し下の方に置くべきではないか、少し見にくい
- ・文字解説の形式や内容は地味ながらもわかりやすく伝えようとする配慮は伝わった
- ・禁止された反面で施行していたことを示すというところに発想の工夫が感じられた
- ・内瀬村の現在の場所が気になったのでそれを載せてもよかったと思います
- ・村明細帳
- ・全体的に関西大学の総合図書館からお借りした史料が多く展示されていた
- ・個人がお持ちの資料や他の博物館・寺社仏

閣から拝借した文献史料も展示してほしいと思った

- ・江戸時代にも若者たちはグループで遊んでいたことにおどろきました
- ・翻刻があるものとないものの違いは何か気がになった
- ・よくまとめられていたと思います
- ・儉約令からみる内瀬村の史料が印象深かった
- ・儉約令下の民衆の様子が垣間見ることができた
- ・現代にも通じる点があることを知れた
- ・解説パネルの内容はよかったが、照明の当たり方でやや見づらいキャプションもあった
- ・明細帳の内容があってわかりやすかった
- ・地図の堺が何を表しているのか知りたい
- ・解説2、若者の夜遊びについておわりにも言及があったが、変わらない人々の様子がありありと脳裏に浮かんできて、よい題材だと感じた
- ・何故儉約令が出されたのかの解説も欲しかった
- ・古地図が印象的だった
- ・とても見やすかったです
- ・文書系以外も借用できれば展示が立体的になって良いかと思いました

## 4. 考察

選択式の4項目の問いに関しては、3項目で約80%以上の方が、「たいへん良い」、「良い」と回答しており、展示を満足して見ていただけたのではないかと考えられる。しかし、4項目の「儉約令」に対する興味・関心については、約30%の方が「普通」、約5%の方が「悪い」と回答されており、改善すべき点もみられた。やはり、「儉約令」というものは、初めて見る方にとっては難しい印象が

あったのではないかと考えられる。また、もう少し「儉約令」そのものに対しての解説・パネル等を準備すればなお良かったと思われる。

記述式の回答を見ると、多くの方から興味・関心を持つことができた等の回答をしていた。また、自分たちだけでは気づかない

点を指摘していただいているような回答も見られ、新たな視点を得ることができたと感じる。

この展示を通して、一人でも多くの方が「儉約令」というものを知り、興味・関心をもっていたいただければ幸いである。

（文学部 4 回生 足立一真）

## Ⅱ. 大坂の両替商と大名～預申銀子之事～

### 1. はじめに

江戸時代には、金・銀・銭の三種類の貨幣が流通しており、その相場の変動や使用通貨の地域差のため、貨幣を両替する必要性があった。そのため両替商という生業が成立し、発展していった。一方で、彼らは両替だけでなく現在の銀行のような役割も担っていた。中でも大坂には有力な両替商が集まり、彼らは一介の商人でありながら幕府や大名を相手に取り立てを行っていた。本展示では、両替商が使用した道具や大名との取引証文、両替商の日記等を取り扱い、道具・文書の二つの視点から、彼らの生業の一部を紹介している。

### 2. 問いについて

問1～問3では、展示の内容について、見やすさについて、解説について、それぞれ1～5の5段階で評価してもらった。問4では、両替商に興味を持ってもらったかを「はい」と「いいえ」の2択で評価してもらい、「はい」の場合は具体的に展示品名を教えてくださいという形にした。最後に展示についての感想を自由に記述してもらった。

### 3. 分析結果

#### (1) 選択式の質問について

無回答についてはどの問いに対しても1%に満たなかったので除外している。

##### ・展示の内容について

たいへん良い、良いがおよそ9割を占める。両替商というあまり身近ではないテーマを扱ったが、かなり分かりやすくくだけた展示だったのではないかなと思う。

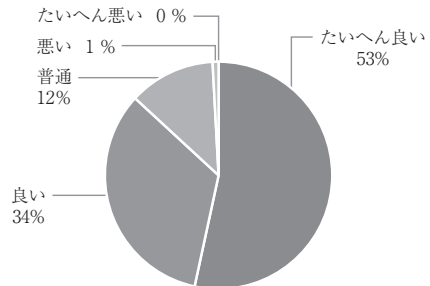


図1 展示の内容について

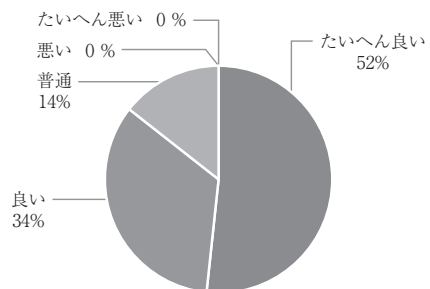


図2 展示の見やすさについて

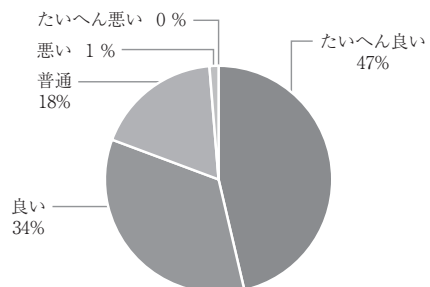


図3 展示の解説について



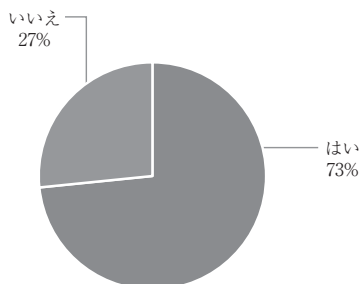


図4 両替商に興味を持ったか

表1 はいの場合の展示品名

順位	作品名	票
1	看板	8
1	大阪両替商便覧	8
3	千両箱	5
3	そろばん	5
5	瓢箪秤	3
5	銭杓	3
5	壺番日記	3
8	算法便覧	2
9	両替商と大名の繋がり	1

#### ・展示の見やすさについて

たいへん良い、良いがこちらも8割以上を占めていた。悪い、大変悪いといった回答が1つもなかったのも良かった。

#### ・展示の解説について

QRコードを使用した解説が非常に評判が良く、こちらもたいへん良い、良いが全体の8割以上を占める結果となった。

#### ・両替商に興味をもったか

「はい」がおよそ7割を占める形となった。展示品も看板から算法便覧まで展示しており、幅広く興味を持ってもらうことができた。

## (2) 記述式の質問について

QRコードに関する意見が多かった。また解説パネルにふりがなが振ってあり、子供にも読みやすかったという意見もあった。具体的な道具の展示で両替商のイメージが膨らんできたといった感想や、算法便覧の見せ方がよかったといった意見もあった。班の人による展示解説が丁寧でよかったという感想もあったので、満足のいく展示だったと思う。改善点としては、両替商の具体的な利益等の数字が欲しいといった意見や、解説の文字が小さかったという意見があったので、全体とのバランスを考えて展示すれば良かったと思う。

## 4. 考察

展示の内容や見やすさ、解説といった質問に対しては、どれも8割以上の方が「たいへん良い」「良い」と回答されていることから、満足して帰っていただけたのではないかと考える。ただ、展示の内容について、解説については「悪い」と回答された方が少なからずいたので、まだまだ分かりやすいように改善できたのではないと思う。

感想を見ると、全体的に展示の内容に興味を持っていたことから、展示の構成や内容は適切だったのではないかと考えられる。両替商に興味を持ったかという問いに対しては7割以上の方が「はい」と回答してくだり、自分たちの展示を見て、多くの方が両替商に興味を持ってくれたことが一番の成果だった。

(文学部 3回生 植上裕貴)

### Ⅲ. お金のデザイン展

#### 1. はじめに

貨幣、つまり紙幣や硬貨には「聖徳太子」のような誰もが知る偉人の肖像、日本を象徴する植物や動物も描かれ、これまでに多くのデザインが人々に親しまれてきた。

私たちは「お金のデザイン展」と題して明治から令和に至る紙幣や硬貨を紹介している。

貨幣・紙幣のデザインに焦点を当て偽造防止技術の向上に伴うデザインの変遷から私たちの身近にある、手のひらサイズの精緻な技術をご覧ください展示となっている。

#### 2. 問いについて

選択肢は5項目設け、①から④の項目は5段階評価（5＝大変良い、4＝良い、3＝普通、2＝良くない、1＝大変良くない）で、⑤の項目については自由記述方式で回答する形をとった。質問項目は以下の通りである。

- ① 展示の内容について
- ② 展示の見やすさについて
- ③ 展示の解説について
- ④ 展示全体の雰囲気について
- ⑤ 今回の展示で印象に残った貨幣・紙幣、またはご意見・ご感想があれば、ご自由にお書きください。

#### 3. 分析結果

※無回答については、全体の1％に満たなかったため、除外している。

##### （1）選択式の質問について

##### ① 展示の内容について

大変良い、良いが全体の9割を占めていた。お金のデザインという、人々の身近にあるテ

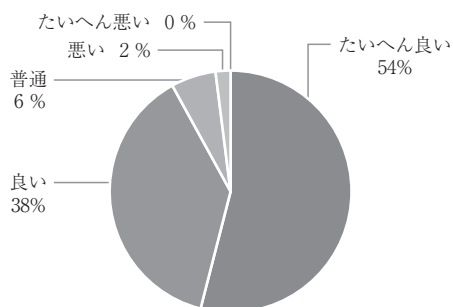


図1 展示の内容について

ーマで展示したことが功を奏したのではないかと思います。

##### ② 展示の見やすさについて

大変良い、良いが全体の8割を占めていた。貨幣の拡大写真を壁パネルにて展示することや、紙幣を斜めに立て掛けることで、平面的な展示品がほとんどであったが、見やすい展示をつくることができたのではないかと思います。

##### ③ 展示の解説について

②と同様、大変良い、良いが全体の8割を占めていた。モニターを使用した補足説明や立て看板型の説明パネル、口頭での解説等、通常の解説パネル以外の形で解説を展開したことが評価されたのではないかと考える。

##### ④ 展示全体の雰囲気について

大変良い、良いが全体の7割を占めていた。壁パネルの色と展示台の色が黒で統一されていたことをよかった感想としても挙げられていたことから、パネルと展示台の色をこだわったことが評価されたのではないかと思います。

## (2) 記述式の質問について

### ⑤ 自由記述について

一部を抜粋する。

- お金は芸術作品だと思います
- 展示方法に工夫を感じた
- 年表形式のものがあればよかった
- 昭和59年発行のD券と現在発行されているE券を比較して特色が分かりやすかった
- 昔使っていた紙幣で懐かしかった
- 改めて紙幣に込められた思いや工夫がみられた
- イスを利用して高さ、動きがみられたのはよかった
- 聖徳太子の解説動画が面白かった
- 動画のスピードが遅く感じた
- お札が変わったよいタイミングだったと思う
- 500円の違い等あまり気にしてなかったので面白かった
- 展示ケースの一部が明るかった

- モニターがあったが、変わるのが遅すぎ、お年寄りでも充分すぎる長さに思える
- すべて下にあり、壁をもう少し使ってはどうか（右側のはバランスが良いのに…）
- お金は普段よく目にする親しいものなので、そのデザインの変化が面白かったです

## 4. 考察

お金という私たちの生活に欠かせないものを取り上げ、かつデザインという部分に焦点を当てたことで、意識してみることにないお金の一面を、展示を通して興味を抱くことができたのではないかと思う。アンケートの結果からも概ね満足のいく展示であったと感じている。なお、モニターの時間や壁パネルでの説明についての改善を求める声が多く寄せられたことからモニターの時間や解説パネルの配置及び割り振りについては今後検討する必要があると実感した。

（文学部 3回 山野里緒）

## Ⅳ. 結びの文化展

### 1. はじめに

結びの文化班は、「結びの文化展」として日常の中に何気なく使用される「結び」に焦点をあてた。日本人の身近にあり、伝統や慣習として受け継がれたものと、現代的にアレンジされたものとを展示し、改めて結びの存在に目を向けてもらうことを目的とした。

### 2. 問いについて

選択式の質問は4項目（①展示内容について、②展示の見やすさについて、③展示解説について、④展示全体の雰囲気について）を提示し、それぞれ5段階で評価をしてもらった。

今回はグラフ内で、5段階評価の割合を示しているが、ここに無回答は含んでいない。

自由記述の質問では、印象に残った展示品、または今回の展示についてのご意見・ご感想を回答してもらった。

### 3. 分析結果

#### （1）選択式の質問について

図1では展示の内容について、89%の方が「たいへん良い」、「良い」と回答されており、良好な結果となった。自由記述から推測されることは、展示品の種類の多さと、結びという親しみやすい展示テーマの影響が考えられる。

図2では展示の見やすさについて、79%の方が「たいへん良い」、「良い」と回答されており、良好な結果となった。角度をつけた展示の方法が見やすさにつながったと考えられる。

図3では展示解説について、79%の方が「たいへん良い」、「良い」と回答されており、全体に占める割合は高くなっている。しかし、「たいへん良い」の項目が他の項目に比べ低くなっ

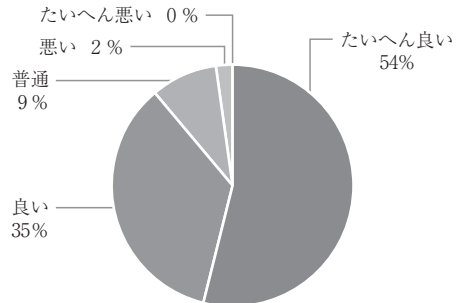


図1 展示の内容について

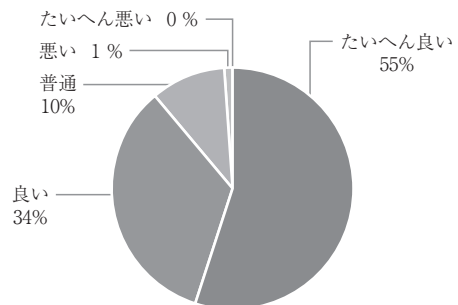


図2 展示の見やすさについて

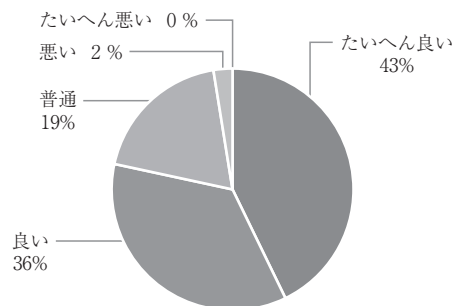


図3 展示解説について

ている。これは文字数や、文字の大きさは読みやすいものであったが、展示そのものの解説に物足りなさを感じた方が多かったようだ。

図4では展示全体の雰囲気について、84%の方が「たいへん良い」、「良い」と回答されており、良好な結果となった。全体のバランス、

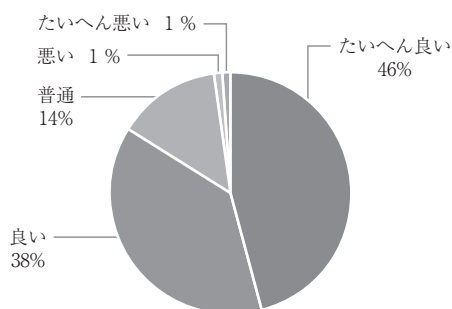


図4 展示全体の雰囲気について

デザイン等に対するコメントが多く見られた。

## (2) 記述式の質問について

記述の回答は以下の通りである。

(※一部抜粋)

- いろいろな結び方があると改めて学びました
- 学生の方がわかりやすく解説してくださったので、不明な点は解決した
- ご祝儀袋の結の種類が多く展示されていて興味深かったです
- お守りにも「結び」があることに気づかされました
- 展示品に角度をつけてあって見やすかったです
- 空間の使い方が良かったです。全体的に興味深かった
- 解説パネルのデザインが凝られていて可愛かった「読もう！」と思えた。羽子板飾りがとても綺麗で印象に残った
- 改めて日本の結に対する意識を認識した
- キャプションも、字が適当な大きさ、字数も200字前後でわかりやすかったです
- パートの区分、家結が3つの見地から異なること等一目でわかると良い
- 最初の部分でいろいろな結びを展示しているが、それぞれの意味等もう少し詳しく解説がある方が、それぞれの結びの感じがわくと感じた
- 「個人蔵」大きすぎでは、それぞれの説明がもう少し
- 結びの意味についての解説が一緒にあれば完璧でした（どういう時に使うか等）
- 解説パネルの余白が少なく詰まっている印象を受けた
- 結びの新旧の文化の中でどこかの時代統一があったらより良かった
- 帯を椅子やクッション等につけて展示されていてよかった
- 説明書きが少なく、きれいだなという感想しか浮かばなかったの、なぜそのような結び方をされているのか意味等を説明書きに書いてほしかった
- 身近な「結び」というものに触れる良い機会、実生活において少し見方が変わる良い展示だと思います
- 展示物を主役に、解説をサポートに出来ていると感じて、とても良かったと思った

## 4. 考察

展示テーマの着眼点に興味を持ってくださった方が多かった。身近なお守りや、ご祝儀袋、華やかな羽子板飾りや、帯が印象に残ったという方が多かった。そのため①展示の内容についての項目で89%の方が「たいへん良い」、「良い」と回答されたようだ。

展示内容に対し、解説が足りないことや、さらに幅広い結びの種類を見たいという意見が多く寄せられた。同時にパネルの文字数を減らしたことで、理解しやすいという感想もたれた方もおられた。

日常のものの中にあるさまざまな結びを知ることができたといった感想も寄せられており、結びに目を向けるきっかけを作ることができた。解説不足、テーマの広さ等の課題も知ることができた。

(文学部 3回生 福本麻莉恵)



## V. 桜花爛漫 菊日和

### 1. はじめに

今回の展示において、我々は、日本の伝統的な装飾品に数多く用いられている菊と桜に焦点を当てた。その生態を始めとして、これらの花を感じる絵画、装飾品、化粧品等を展示することで、花に彩られた人々の生活を味わってもらうことを目的とした。

### 2. 問いについて

まず、選択式で「展示の見やすさ」、「展示の解説」、「展示内の動画」のそれぞれ3項目を5段階評価で、「装いにおける菊と桜について興味を惹かれたか」について、「はい」と「いいえ」の二択で回答してもらった。無回答のものもあったが、今回の分析には含めていない。

次に自由記述式で、「特に印象に残った・興味を惹かれた展示物や、展示の改善点」について、回答してもらった。

### 3. 分析結果

#### (1) 選択式の質問について

図1は、展示の見やすさについてのグラフである。「大変良い」が半数以上、「良い」は約3割を占めている。更に、「悪い」と「大変悪い」が合わせて1割にも満たないことが分かる。

図2は、展示の解説についてのグラフである。先ほどとは違い、「大変良い」は半数未満であるが、それでも「良い」と合わせると、全体の多くを占めている。「悪い」、「大変悪い」に関しては、図1よりも占める割合が減少している。

図3は、展示内の動画についてのグラフであ

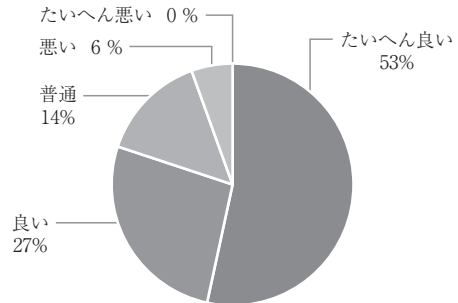


図1 展示の見やすさ

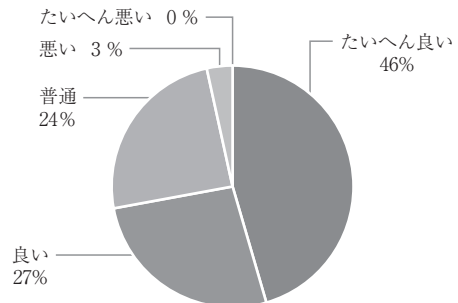


図2 展示の解説

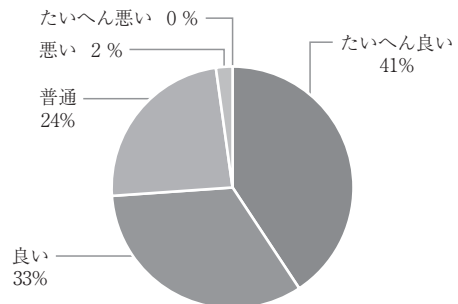


図3 展示内の動画

る。図2とおおよそ同様の傾向を示している。

図4は、装いにおける菊と桜について興味を惹かれたかについてのグラフである。興味を惹かれた人が約8割を占めており、多くの来館者が、我々の展示によって、装いについての菊と桜について興味を持ったことが分かる。

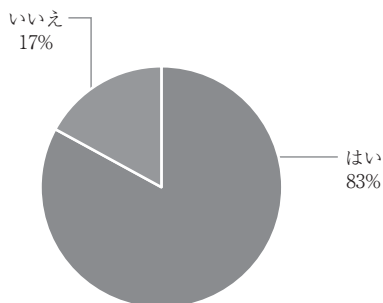


図4 菊と桜について興味を惹かれたか

## (2) 記述式の質問について

記述式の回答は以下の通りである。

(※一部抜粋)

- 動画のスピードが少し早い。展示順の意図がよくわからなかった
- 動画のスライドが流れる感覚が少し早くじっくり見られないのが残念だった
- 説明の文字が小さく、少し読みにくかった
- 解説の文字が見えにくかったです
- 桜や菊といった花のキャプションが小さく読みづらかった
- 色合いが華やかで目を引くが、一部の解説の文字が小さく読みにくかったです
- 桜の展示と菊の展示で視覚的に差別化をはかっていたので良かったです！
- 造花があったりパネルに模様が入っていたりしていい雰囲気でした。現代のものであっても時代のつながりを感じることができました
- また個人的な感想になるが、文字作品との関連と装飾における桜と菊の実用性がわかる和歌の展示が心に残った
- 桜と菊の対比がよかった
- 桜と菊の装いをした両者の女性を通して、桜と菊を愛する日本の文化や感性が再認識できた
- 解説もじっくり読んでしまうくらい、桜花爛漫の世界観に吸い込まれました

- 昔のものから、現代のものまで様々の展示物があって、興味深かったです

以上から、改善点として、パネルの文字の大きさが小さい点と、展示内における動画のスピードが少し早い点が多く挙げられていた。また、特に良かった点として、展示を一目見た時の華やかさ、菊と桜の対比を意識した展示構成、日本における花の素晴らしさが多くを占めていた。

## 4. 考察

今回の展示テーマ及び構成を行うにあたって、菊と桜を見比べることを可能にすることに加え、近現代の華やかな展示物及び解説パネルによって、若い女性を中心として展示を見て興味を持てもらうという狙いを設定していた。アンケートの結果、特に図1、図4、記述式の質問から、目的が達成されていることが伺える。

しかし、解説パネルの文字が小さいため読みづらいということや、展示について十分に理解できなかったという意見が、主に中高年層から多く寄せられる結果となってしまった。これは、展示ケースの奥行きに加え、ガラスがあるため離れて見ることになるという想定が出来ていなかったためである。

また、動画のスピードが少し早いという意見も比較的多く寄せられた。これは、動画が長過ぎても来館者を拘束することになる上に、肝心の展示を見る前に疲労させてしまうことを避けるために、少し早めに流していたのである。しかし、来館者としては、折角動画を見ているのに物足りないと感じさせてしまった。

解説を読んでももらえないことによって理解が不十分になってしまうことや、展示前の動画でマイナスの印象を持たれてしまうのは、

展示としてあってはならないことである。しかし、全てのパネルや動画を差し替えるのは困難であったため、実習展後半に同じ内容を記載したQRコードのパネルを設置することで、手元で快適に解説を見てもらうという対策を行った。すると、後半では、解説が見づらいという意見が前半と比べ大きく減少し、見やすさに関しても良い評価が増加した。このことから、どのような形であれ、来館者にとって見やすい解説というものは、展示において大きな役割と評価に繋がっていると考えられる。

また、若い女性を中心として興味を持ってもらう構成として、現代の有名な化粧品や和装等を展示したことで、来館者の半数以上を占めていた10代～20代や、女性の多くに好評であった。しかし、特に中高年の男性を中心に、厳しい意見や興味が薄い反応も見られた。あっさりと展示を歩いて見て回る来館者もお

り、展示をじっくり見てもらえないこともあった。このことから、一部をターゲットの中心にしたテーマは、当然であるが人によって大きく評価が分かれる結果となった。展示というものは、来館者を選ぶべきではないため、来館者の傾向に合わせて構成することはあっても、あまりにも人によって興味の差が激しいテーマを選択することは、導入の時点で大きく評価が二分されてしまい、正当に展示の評価が得られない危険性もあると考える。

ここまで反省点を多く述べてきたが、全体的に来館者から良い評価を得ることが出来た。菊と桜という馴染みのあるテーマ、比較展示という分かりやすい構成、展示物とパネル以外に動画というアプローチ、パネルのデザイン、造花や詩から花へと興味を引くアプローチがこの比較的高い評価に繋がっていると考えられる。

(文学部 3回生 神谷風奈)

# 関西大学博物館実習展（講評）

日程 2022年11月13日（日）～11月18日（金）10時～16時

場所 関西大学博物館特別展示室（簡文館内）

## 倭約令～庶民の暮らしを読み解く～

- ・文字資料であり、展示が難しいし、内容を理解させるのも難しいと思うが、もう少し工夫が必要ではないか。
- ・パネル（題箋）の文字が多く、小さい。
- ・翻刻も行っており、解説も丁寧である。
- ・タイトルは倭約令より、庶民の暮らしを読み解くの方がよいと思う。
- ・もう少し村の暮らしや支配構造（村方役人）についての解説もほしい（西田家）。
- ・村の暮らしが分かりやすく解説されている。
- ・展示のルビの統一性がない、図録にはルビがない。
- ・内瀬村を取り上げた理由が、「資料があったから」という事で、積極的に欠ける。倭約令後にどうなったのかも調べていない。
- ・図録資料番号1と5が同じ資料名称でまぎらわしい。1を「享保17年～」、5を「天保6年～」と年号を付ける等して、同定できるようにすべきではないか？
- ・ポスターの作品が展示されていない、ページが違った。絵図の比較の昭和17年の写真もいいが今の地図があってもよい。
- ・パネルの紙が浮いている。
- ・『摂津名所図会』は「参考」ではなく、作品として出しても良かったのではないか（全体の構成を考え直す必要は出てくるが）。
- ・4の解説1～4がどの部分の事なのか分かりにくい。とはいえ、史料を読み解き、それを伝えようとする姿勢は評価できる。
- ・ポスター：古文書もデザインに用いてはどうか。
- ・古文書という展示に不向きな資料にチャレンジした点は評価できる。
- ・江戸時代の村を対象とするのであれば、支配の変遷に関する基礎情報を示す説明パネル等があれば良かった。
- ・のりパネの用意等、事前にもう少し準備をきっちりしておいたほうが良かった。
- ・文書を主に扱う展示なので、ポスターでもその事が伝わるといいのでは？（絵だけだと、図絵の展示かと思う）。
- ・展示のメインではないかもしれないが、内瀬村とは現在どんな様子なのか、どこなのか知りたくなった（昭和17年の様子では、どこかよく分からない）。
- ・地味なテーマではあるが、古文書を生かしての展示は評価できる。
- ・庶民の生活、奢侈への憧れ等、もう少し深める事が必要。

- - ・最初の絵地図とパネルの航空写真の方向が90度異なる史料が並んでいて、結局儉約令はどうだったのか、特に図録ではその解説がないので分かりにくい。
  - ・100年後の絵地図が並んでいるが、儉約令の結果の変化が表われているのか、図録とも解説がない。
  - ・ポスターも儉約令と関係が不明。
- - ・儉約令はサムライ、町方、社寺にもある。
  - ・村方の展示であるが、身分制の内です。
  - ・儉約令について少しでも触れた方が良かった。
  - ・図録には詳細な背景説明がほしい。
- - ・図録の中で、釈文の内容をもう少し記してほしかった。
  - ・ポスター：色の使い方が良い。
  - ・展示：明細帳の内容、西田家について、報恩講、若者の夜遊、女奉公人を娶る、百姓の出稼ぎの項目解説が図録に反映されていないのは残念。
- - ・儉約令←何度いっても守らない くらしを読み解く←図面
  - ・展示コンセプト：資料の選定は良い、空撮・図面・現況写真があれば。
  - ・タイトル「ええかげん ほっといてくれ ～儉約令～」等はどうか。
- - ・展示資料点数が5点と少なく、そのうち「儉約令」に直接関係する資料は1点だけと、展示タイトルと内容に乖離があるように思われる。
  - ・絵図の状況が理解できる航空写真の展示は良かったが、現在の状況も写真で示してはどうかと思った。
  - ・内瀬村が現在のどのあたりか地図で示したほうが良い。
  - ・図録には、資料翻刻が全文掲載されており、努力された事が分かった。
  - ・「儉約令」の記載内容が内瀬村の暮らしを表したもののか、儉約についての一般論として記された内容か、吟味する必要がある。
- - ・展示が平たい。
  - ・解説とのリンク（矢印はあるが）。
  - ・ポスターの絵、どこが儉約なのか。
  - ・項目に矢印等をあげて、どのような事からどのような事にと強調。
  - ・目録はおたく、単なる資料集。
- - ・テーマタイトルが不適切。たとえば、「儉約令—摂津国島下郡内瀬村文書から—」。
  - ・解説パネルが散漫。ラベルとともに統一フォーマットを考える事。パネル大、パネル小、ラベルへと読み進める読解の流れを意識して、観覧者がつかみやすいテキストを作成する事。
  - ・内瀬村の時間的な流れ（略年表）を作製し、展示されている史料、事象がどこに当たるのかを示してほしい。
- - ・展示スペースや資料の問題もあるだろうが、内瀬村だけでなく他の村の状況との比較がほしかった（どこも同じだったのか内瀬村が特別だったのか）。
  - ・パネルで詳しく解説しているが、展示ケースをまたいでいたのを見づらい。



### 大坂の両替商と大名一預申銀子之事―

- ・図録の章立てが不明、内容が写真中心で展示意図が分からない。
- ・資料のもつ情報量をもっと引き出せるのではないか。
  - ・例えば看板の裏目はどうなっているのか、使い方はどうなのか、銭析で数えるお金はどのようなものであったか。
  - ・図録、解説のみ、展示ストーリーは？
- ・展示内容は面白いが、順が間違えている。
  - ・必要な解説文が作られていない。
  - ・図録は写真と解説を同じページにすべき。モノの説明だけでなく、時代背景や解説文も載せるほうがいい。
- ・展示の寛永通宝は四文銭だが、一文銭を展示していない理由は？
- ・展示解説が不十分。算法便覧を展示しているが、それが何の場面なのか一言ほしい。両替看板がなぜこのような形なのかも一言ほしい。
- ・銭屋と大坂の両替商の展示の順が反対の方が良かったのでは。
- ・いろんな形状の作品があって目に楽しいがそれについての解説がないので、並べているだけ。
  - ・ポスター：画像がぼやけている。
  - 図録：図版が小さすぎ、ものが多い。
- ・展示の際にグループ内で議論しながら、作業を進めていた点は評価できる。
  - ・展示スペース内にうまく配置できた。
  - ・立体物のライティングなども工夫して取り組んでいた。
- ・ポスターはインパクトがあるが、「大名」は？「大坂の商と大名」と思っていました。物を交えてレイアウトするのは工夫が必要。
  - ・趣旨説明がほしい。サブタイトルはどこから？
  - ・後半で人物に注目しているが、どんな人物で、なぜその人を取り上げるのか知りたかった。
  - 図録：展示品の解説としてはよくできているが「主旨」は見えにくい。
- ・両替商の問題は研究も多く、その成果をもっと生かす事が必要。展示資料は、分かりやすいもので、一般受けはする。
- ・これだけの展示で両替商を理解してもらうのは、無理がある。図録も展示品の解説だけで両替商の解説文がない、写真ももっと品物を大きく切り抜く必要がある。
  - ・ポスターは日付よりも場所が目につく、どちらがお客さんに伝えたい情報ですか。
- ・両替商について、江戸時代の信用社会の説明がほしい。
  - ・両替でうまく回る仕組みについて説明すべき。図録とは詳細な背景説明がほしい。
- ・図録：資料解説はあるが、展示の目的、内容を記すものがない。
  - ・ポスター：タイトルの工夫が良い。
  - ・展示：項目解説の内容が図録に反映されていないのが残念。
- ・QRコード（面白い）。
- ・銭屋（大商大にもある）→銭屋。

- 展示順路 パネルの配置。
- 解説 リード文は？
- 図録：図版だけきれい。
- • テーマが少し大きすぎたように思われる。
- 資料翻刻には努力されていた様子がうかがえた。
- • いきなり「両替商とは」。
- そろばん、瓢箪秤は分かりやすい。
- 図書館のラベル→トリミング。
- 錢枰は使用状況等リアルにできなかったか。
- 前半の道具類の展示と後半の文書の展示が乖離しており、前半部分は必要ないのではないか。
- 道具類の年代観が不安。
- 住友、三菱は両替からの発展とはいえないのではないか。
- • 両替商の道具は、どういう目的で、どのように使ったかをパネル等で示した方が良かった。
- 展示資料と解説パネルのバランスを考える必要有。来館者全員がQRコードを読み取れるとは限らない。

## お金のデザイン展

- • 図録 硬貨の写真が小さく、文様等が確認できない。
- 展示は均一的で変化が少ない。
- • なぜそのデザイン、人物が採用されたのか時代背景も含めて掘り下げが必要。
- 図録はコインショーのカatalogueのようであり、工夫が必要だろう。
- • ポスターデザインはお金のデザインを一部使っているのになぜ聖徳太子？と思ってしまう。
- 図録の表紙デザインのほうが分かりやすい。
- 図録に謝辞がない！ここは重要。
- 展示のメインは現行発行されているお札の技術かと思ったのに図録には重要視されていない。一番伝えたい事は何だったのか？
- • 写真が小さすぎて、図録で資料を観察しにくい。
- • キャプションが見つらなかった。
- 発行順の表示の（ABC 甲乙丙）等もう少し工夫があっても良かったと思う。
- 紙幣の簡単な年符があればもう少し見やすかったのでは。
- • 実習展ならでは、という展示ではない“お金の博物館”の常設展示のよう。
- 見る前から内容が推察されてしまう。
- 「デザイン」を追求していない。
- • 黒をバックにしたパネルや展示台は、資料や解説文が映えて見やすかった。
- 小さい資料をどのようにすれば見やすく理解しやすい展示になるのか、もう少し工夫があっても良かったか。
- 図録の図版が小さい。

- ・ポスターはモダンでうまいが、展示全体の主旨と合っているかどうか？
- ・展示の主旨を示すパネルがほしい。  
図録では見るべきポイントが分かるが、展示では分かりづらい。
- ・図録の表紙の雰囲気はいい。内のレイアウトはもう少し図が大きくてもいいのでは？細かな所が見づらい。
- ・図録の写真の大きさはもう少しめりはりを付ける方が良い。採用されている人物の歴史的評価等深める必要がある。
- ・紙幣や硬貨は小さいし、壁面に拡大写真を掲示する事が偽造防止のためできないので展示自体が難しかったと思います。
- ・図録の硬貨の写真はもっと拡大して撮るか、切り抜くかしないとよく見えない。
- ・キャプションの「おもて・うら」のところ、字が大きすぎる。
- ・デザインとして個別の展示のみ、お金のデザインが変化する理由を展示すべき。ニセ金、戦争等、解説が不足している。
- ・パネル、図録には詳細な背景がほしい。
- ・図録：全体はよくまとまって見える。  
ただ、お金のデザインが示す意味を各解説で示すのではなく、解説で示してほしい。
- ・ポスター：おもしろい。
- ・展示：解説、マイクロデザイン、偽造技術、バイカラークッド背の図等図録に反映されていないものがあるのは残念。
- ・展示が単調。
- ・図録にリード、論考が必要。
- ・写真が小さい。もう少し強弱をつけた方がよい。
- ・ポスター：バカボン 肖像。
- ・ひとり声が通っていた（放送部）。
- ・「デザイン展」としているが、それを展示内容にうまく反映していないように思われた。
- ・デザインというのか。目的の記号化する指示書。コインのアップはもっとアップか、デザイン採用理由箇所をアップ。
- ・偽造防止モニター → 展示資料とのリンク、尺が長い（5分）→内容が薄いので2分に。
- ・背後に大きい聖徳太子の絵は自力か。パネル、紹介部分を明示。
- ・案内アナウンスは良かった。
- ・図録ではなくカタログ。
- ・図録が散漫（ページレイアウト、デザインに凝縮感がまったくない。）
- ・図録、パネル、ラベルのデザインが不統一であるため一連のものとは思えない。
- ・解説パネルの本文は、両端揃えにしなければならない（頭揃えは欧文のフォーマット）。
- ・個別の資料（貨幣）について、どこを見れば「お金のデザイン」を見て取る事ができるのか、が分からない（パネル↔ラベル↔資料の流れが遮断されており一続きになっていない）。
- ・おもしろさが伝わってこない。

- ・焦点を当てているのはお金のデザインではなく肖像や建築物、風景等のモチーフか。
- ・お金のモチーフの変遷と当時の社会情勢や生活との関係についての解説があるとよい。

## 結びの文化展

- ・題箋と資料とのバランスを考慮すべき。
- ・図録の構成が良かった。
- ・いきなり結びの種類から展示に入っているが、モノの起源や歴史に触れてほしい。
- ・キャプション等のパネルが大きすぎる点や切り方が雑である。
- ・図録は上下二段組でラインを入れるレイアウトはどうか。
- ・結びの中でもなぜヒモやロープではなく、これを選んだのか聞いてみたが「ごちゃごちゃするから」という解答はよくない。伝えたい事が決まっておらず、ケースに収める方向になっていたのでは。
- ・図録に謝辞がない！
- ・帯がインテリアになっている事が展示からは分からない。
- ・地域（地方）によって、鬘斗の結びが変わるという観点が欠落している。
- ・展示の順をもう少し考えられた方が良かったのでは。  
最初に「注連縄」、「お守」等を出して後「水引」、「道具」、「帯」の順で、結び方を紹介されると見やすいと思う。
- ・作品よりキャプションの方が大きいものがあり、何を見ればよいのか迷う。
- ・「文化」という以上、文化を論じる必要があるのではないか。
- ・展示の準備をもう少し早めに進めていた方が良かった。
- ・時間が少なくなったために作業が雑になっていて、資料に対する安全性が担保できていなかった。
- ・ポスターは色が美しいが「結び」に注目するような工夫があってもいいのでは？
- ・図録の編集は難しいが、もう少し行間をつめる等して、1ページ／見開きで1つのテーマが完結するようになれば見やすい。
- ・展示のキャプションの文字が、展示物に対して大きすぎないか（一定の大きさは必要ですが）。どう結ばれているのか、知りたくなった。
- ・テーマ設定は興味深いが、歴史的に追うのなら絵巻物等を活用する必要がある。時代性を考慮して内容を深める事が大事。
- ・品物は並んでいて「結び」をテーマにしているのは分かるが、何かもの足りない感じがする。「結納飾り」も端で、真ん中に配置する工夫がほしい。
- ・注連縄と下のお守りも関連するようで、本当は結びつけるのは難しいのでは。図録は平板。
- ・結びについて、民俗的に発生と変遷の時系列が必要である。説明が不足している。時系列を図録に詳細説明すべき。
- ・図録：三つに分けられている結が、5ページ以降でどのように対応しているかを示してほしかった。
- ・ポスター：色の使い方は良いが、資料の配置、文字の大きさと配置にもう少し工夫がほしい。

- ・展示：項目解説、題箋等のベース色をあわせたのは良い。  
個人的には見やすかったが、文字のバランスを全体的に統一した方がよい。
- ・帯の展示：イス→やはり違和感がある。
- ・水引：体験コーナー。
- ・男帯：男子にしめてもらって当日登場。
- ・「結ぶ」をキーワードに、さまざまな資料を取り上げようとした事は、面白い視点だと思われたが、「注連縄」のような、若干「結ぶ」からは違和感ある資料もあった。
- ・インテリアとしての帯の展示が面白かった。
- ・ひもの結び？→絞れないか。
- ・キャプションに統一感がある。
- ・立体的。
- ・冒頭のタイトルパネルの文字が不ぞろいの箇所がある。
- ・すべての壁付けパネルが右下がりに固定されている。
- ・文が練られていない（推敲されていない）。たとえば、「日常に根ざす」の「根ざす」は、「そこに基盤を置く。また、原因となる。もとづく。」の意味で、用法として不適切。また、文中に俗語が多く含まれているように思う。
- ・「羽子板飾り」の展示ではガラスケースは不要。
- ・「結びの文化展」ではなく「結びの種類展」がふさわしい。
- ・「結び」とするのはテーマが大きすぎる。水引は沢山の種類が展示してあるが、帯は少ない等、片よりがある。どれか一つに絞っても良かったかもしれない。
- ・資料数に比べると解説が少ない。展示を見ただけだと内容が分からない。

#### 桜花爛漫 菊日和

- ・題箋の大きさと文字数の関係でバランスが取れていないものがある。
- ・文字が小さいので見づらい。
- ・展示の題箋を斜め置きにしてはどうか。
- ・桜・菊の歴史をたどるのか、時代を絞って近代以降の人々にとっての桜・菊とは、といった形での展示とするのか、幹となるストーリーがよく分からなかった。
- ・桜と菊を対比させて展示しているのは面白い。図録でも対比させたほうが面白くなったのでは？
- ・ポスターの解像度が低い、小さく作って引き伸ばしたのでは？
- ・パネルの切り方が雑。落として曲ったら切り落とすほうがいい。
- ・ビデオの送りが早すぎる。
- ・花を展示しているのか、花の模様を施した物を展示しているのか？
- ・「菊」は見やすいが「桜」はキャプションの色や並びが少しうるさかった。
- ・キャプションの文字。
- ・「20代の女の子」にターゲットを絞った、と明言しているが、本来、展示は広く訴えるものではないのか。特に「女の子」という言い方が気になる。

- 桜と菊をモチーフにした作品を並べているだけに感じる。なぜその模様にしたのかが必要。
- - 全体的にきれいな展示になっていた。
  - もう少し解説を詳しくしたほうがよい。何を伝えたいのかを明示する事が望まれる。
  - 日本の文化に関する展示図録だとすると、縦書きで右開きのほうが良かったのではないかな。
- - ポスターは人物のインパクトがあって迫力◎だが菊と桜の図像が分かりにくいかも。  
図録の表紙の方がコンセプト伝わるのでは？  
そつなく仕上げているが、解説は短くても全部に書く方がバランスいいのでは？  
菊と桜は日本の花の二大図柄であるだけでなく何かの「象徴」になっているものです。そんな視点もあるのでは？
- - 全体に資料の解説が不十分であり、テーマへの追及が必要。菊慈童についても、日本では、能の演目にもなっており、世に広まった。もう少しリサーチが必要。
- - 長谷川真信の「浪速美人図（花）」、「同（月）」を対比させるという展示の意図があるなら  
同じ展示ケースに並べる等の工夫が必要だったのでは。
  - 図録は写真を並べただけ、しかも画像が荒い。
- - 桜について、時系列がない。
  - 梅（中国）と国風文化について解説がほしい。
  - パネルの文字が小さく読みにくい。図録に詳細説明が必要である。
- - 図録：発行日が他の班と違う。  
掲載資料に解説のあるものとなないものがある？
  - ポスター：絵をうまく切り抜き、バランスの良い仕上がりになっている。
  - 展示：バランスよく展示されているが、文字が少し小さいものがあるのは残念。
- - センターの問題。
  - キャプションの文字。
  - (資料) レジューメの設置。
  - 借用のやり取り（クラブ）→それぞれ図書館にもあるのでは？
- - 華やかに見える展示であったが、コンセプトが十分に理解できなかった。
  - 複製資料ばかりを収めた最後の展示ケースの内容は、果たして必要かどうか（必要ならば、きれいな複写が必要）もっと吟味する必要があったと思われる。
- - モニターの画質が悪い。YouTube の再生回数18回。
  - QR の解説はもっとオタクに。
  - ポスター、ピクセル、ギャザーが — 絵、装飾、化粧 — サブタイトルとキャプション、背景が重なって見づらい。
  - 桜、菊、等大きく項目サインに「花で装い、日々を彩る」のコピーをどう加工するか？
  - 蔵と出典が分かりづらい。
- - テキストの文は全体に要再考、要推敲。
  - 「生態」の展示はどこにあるのでしょうか。
  - 最後（三番目）の展示ケースは不要。
  - 歴史性が完全に欠落している、歴史性が必須とはいえないが内容の追究が浅い。



- 不要な「かざり」が目について、資料とその価値を見せるための展示（ディスプレイ）になっていない。
- 展示品数が不必要に多い。色紙や造花、雑誌の写真パネルは必要なかったのでは。
- なぜ花の中でも桜と菊なのか。展示スペースの割に資料数が多いので、どちらか（桜に）絞っても良かった。

## 総 評

- • 積極的な列品解説が少ない。
- • 全体としては、展示する事、並べる事に汲々としている印象。展示品（モノ）の観察も含めてその形状や機能、その起源や由来等が掘り下げられていない。うすっぺらい内容。時代背景についての解説もある程度必要。
- 図録は、各博物館、美術館で刊行されているものをよく見てほしい、デザインに特徴があってもいいが、ある程度の書式はある。
- • パネルの貼り方、モノの置き方がキレイ。
- なぜこの展示をしたのか、一番伝えたい事は何なのか、が聞いてみないと分からない。
- • 高校の文化祭の展示の域を超えないものが多い。
- 家にあるもの、買ってきたものを展示する意義が感じられない。
- 展示を通して訴えたい事が感じられない。
- 他の先生方とのお話に出ましたが、借用手続きの必要でない個人（家にあるもの）からの借用はなし、という事にできませんか。
- • ポスターは時代を反映しているのか、どれもうまくまとめている。だが、展示の要点を伝えているか吟味が必要。
- 図録もそつなくまとめているが、あと一步、読者／観覧者へのサービス精神があれば…。
- 「もの」の魅力をもう少し引き出す努力を。
- 準備を通して、それぞれの分野の専門家になっている皆さんですが、一旦、客観的な眼で見直す時間を作ってみては？頭をまっ白にして初めて見る人に理解できるか再検討が必要です。「用語」は通じますか？
- • 全員が協同して、作業に取り組む事ができたか、各人でしっかり反省して下さい。
- • 3年ぶりの通常開催の実習展だったので現3年生は1、2年の時に見ていないため、かなりハンディがあったと思います。その点で展示スペースの広さに対してテーマの設定が大きすぎたという印象が強いです。スタートしてから手直しが続いたようですが、何とか無事に終わったのではと思います。お疲れ様でした。
- • 全体として「なぜこのテーマの展示となったか。これを知ってほしい。」という「主題」が明示されていない。
- 時系列説明がない。
- 図録すべてが「図の録」になってしまった。
- • 全体的にみて、作業の分担をした事によるためと思われるが、展示されている項目解説が図録に反映されていない班が目立った。

- 展示が終わると、それは撤去され残らないが、図録は残る。苦労して集めたデータとそれを活用した成果が図録として残らないのは残念。
- - 全体的に図録は個別コメントが多く、全体の説明や論考が少ない。
  - 展示も予定調和で驚きが少ない。
  - 解説対応が受け身である。
  - 儉約令：タイトルは面白くない、少しキャッチーにする→全体の中では1位。  
ターゲットは絞れている、もう少し図版写真を入れてビジュアルを充実させれば言う事なし。
- - もっとテーマを絞る必要があると思われる。
  - パネル、キャプションが少なく（特にテーマや、全体の説明）不十分であったと思われる。
  - 時間の関係で、解説対応を受ける事ができませんでした。
- - 全体にオタク。
  - 図録がカタログ、工夫がない。
  - タイトルと内容にギャップがある。
  - 互いの班の展示も評価。
- - 図録を提出後の訂正や差し替えが多かったので、提出までに各グループの皆で内容を推敲すべき。
  - 展示資料が多く、解説が少ないグループが多い。テーマと展示レイアウトの計画をしっかりとする。
  - 早めにパネルや題箋の数・大きさ・位置、資料の配置・レイアウトを決めるため、実際に資料を仮置きする等の作業が必要。
  - 準備作業（パネルのカッティング等）を行う際に、道具やのりパネ、資料に伴う共箱や梱包資材等をしっかりと管理する。雑然としていると紛失や破損させる等、事故のもととなる。